

ジルコニアコーピングを用いた単冠修復：伊藤和明

■症例：担当医師・服部理志(こえぬまビル歯科)

患者は事故で破損した上の審美的な歯冠修復を希望して来院した。患者のもつ歯牙のサイズや配列状態に合わせ、左右対称に補綴物を製作すると、歯間空隙が目立つこととなる。しかし、患者は間隙がなく、かつ極力左右対称に見えるような補綴物を期待していた。

製作にあたっては、Procera zirconia でコーピングを製作し、VINTAGE ZR(松風)を築盛。ジルコニア特有のコーピングの反射抑制と色調補正に Art Stain(松風)のファンダーション(F-A shade)を使用した。これにより濃度の微調整が色むらを抑えた状態で容易に行えた。完成した補綴物は切縁付近の透明感が多少強かったことが反省点ではあるが、色調・形態ともに術者・患者両者の満足が得られた。今後の臨床においても、このような緊張感を忘れることなく努力していきたい。



Shade Taking 1



Shade Taking 2



Close-up after the Treatment



伊藤和明：(有)クエスト
東京都文京区本郷2-8-1
1999年 大分県歯科技術専門学校卒業
2004年 マスターセラミストスクール第3期デイクラス卒業